

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養専門課程	グラフィックデザイン科	夜・通信	249時間	160時間	
	デザイン専攻科グラフィックデザインコース	夜・通信	1410時間	160時間	
	デザイン専攻科デジタルデザインコース	夜・通信			
	デザイン専攻科ファッションコース	夜・通信			
	デザイン専攻科マンガデザインコース	夜・通信			
	デジタルデザイン科	夜・通信	202時間	160時間	
	マンガ科	夜・通信	251時間	160時間	
	ファッション科	夜・通信	708時間	160時間	
	総合デザイン科	夜・通信	290時間	160時間	
工業専門課程	インテリア・建築デザイン科(2年制)	夜・通信	242時間	160時間	
	インテリア・建築デザイン科(3年制)	夜・通信	320時間	240時間	
(備考)	名称変更：令和4年4月より「デザイン専攻科」へ変更 令和3年4月入学生は「グラフィックデザイン科」を適用				

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ida.ac.jp/information/public/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上において公表 http://www.kbcgroup.jp/public/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和2年4月 1日～令和5 年3月31日	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
非常勤	社会福祉法人理事	令和2年4月 1日～令和5 年3月31日	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程編成計画 (カリキュラム)</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画 (シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.ida.ac.jp/information/public/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学習意欲の把握、試験やレポート、作品制作評価などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して履修を認定します。</p> <p>G P Aの算出式は下記に示すとおりです。</p> <p><1>試験得点に応じて5段階(3.0、2.0、1.0、0)の数値(グレード・ポイント)を設定します。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はグレード・ポイントが0点となります。</p> <p><2>各履修科目のグレード・ポイントに、科目の時間数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の時間数の合計で割ったものがG P Aとなります。</p> <p>成績評価基準及びG P A算出方法を学校H Pにて公開し年度開始毎に学生へオリエンテーションにて開示を行います。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.ida.ac.jp/information/public/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。</p> <p>ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにH Pでも公開を行う。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.ida.ac.jp/information/public/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kbcgroup.jp/public/
収支計算書又は損益計算書	http://www.kbcgroup.jp/public/
財産目録	http://www.kbcgroup.jp/public/
事業報告書	http://www.kbcgroup.jp/public/
監事による監査報告（書）	http://www.kbcgroup.jp/public/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報（1）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	グラフィックデザイン科 (現デザイン専攻科)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1955 時間 単位時間/単位	626 単位時間/単位	728 単位時間/単位	868 単位時間/単位	2222 単位時間/単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		31人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。 (4月)</p>
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制として、個別対応を実施している。</p> <p>定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。</p>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40人 (100%)	0人 (0%)	36人 (90%)	4人 (10%)
<p>(主な就職、業界等) 広告代理店 印刷関連など (株)ナハト、株式会社RUHIA、株式会社木立、有限会社マンゴハウス、有限会社アイディブランド、株式会社琉縁、冒険王株式会社</p>			
<p>(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p>			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
Illustrator クリエイター能力認定試験	40名	37名	
Photoshop クリエイター能力認定試験	40名	37名	
DTP 検定Ⅱ種	41名	20名	
ADEC 色彩士検定	40名	40名	
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81 人	8 人	9.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的疾患、家庭環境の変化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（2）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養		文化教養専門課程	デザイン専攻科 グラフィックデザインコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1722 時間 単位時間／単位		274 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1448 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
				1722 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
156 人の内数		25 人	0 人	2 人	3 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。 (4月)</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>	

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (100%)	-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 今年度より学科名称変更のため、「学科等の情報(1)」グラフィックデザイン科に記載			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
一人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

学科等の情報（3）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養		文化教養専門課程	デザイン専攻科 デジタルデザインコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1741 時間 単位時間／単位		669 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1072 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
				1741 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
156 人の内数		13 人	0 人	2 人	3 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>	

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (100%)	-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 今年度より学科名称変更のため、「学科等の情報(1)」グラフィックデザイン科に記載			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
一人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

② 学科等の情報（４）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養		文化教養専門課程	デザイン専攻科 ファッションコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1769 時間 単位時間／単位		250 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1519 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
				1769 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
156 人の内数		9人	0人	2人	3人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。 (4月)</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (100%)	-人 (0%)	-人 (0%)	-人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 今年度より学科名称変更のため、「学科等の情報(1)」グラフィックデザイン科に記載			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
一人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

③ 学科等の情報（5）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	デザイン専攻科 マンガデザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1730 時間 単位時間／単位	161 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1569 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			1730 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
156 人の内数		30 人	0 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (100%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 今年度より学科名称変更のため、「学科等の情報(1)」グラフィックデザイン科に記載			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
一人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（6）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	デジタルデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1929 時間 単位時間／単位	643 単位時間 ／単位	244 単位時間 ／単位	1042 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1929 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		23人	0人	2人	3人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。 (4月)</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	1人 (5%)	14人 (82%)	2人 (11%)
(主な就職、業界等) Web、デジタルコンテンツ業界など (株)ナハト、株式会社 RUHIA、(有)シーエムシー、丸正印刷(株)、(株)琉球新報開発、(株)オプト			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
Illustrator クリエイター能力認定試験	23名	21名	
Photoshop クリエイター能力認定試験	21名	17名	
DTP 検定Ⅱ種	20名	4名	
ADEC 色彩士検定	24名	22名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45人	5人	11%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的疾患、家庭環境の変化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

② 学科等の情報（7）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	ファッション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1956 時間 単位時間／単位	428 単位時間 ／単位	1111 単位時間 ／単位	957 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2506 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15 人		10 人	0 人	2 人	6 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム）</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス）</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	11人 (73%)	4人 (26%)
(主な就職、業界等) アパレル販売業界 株式会社ヤマダヤ、株式会社ゲオホールディングス、株式会社ジュン			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
パターンメイキング技術検定試験	15名	12名	
ファッション販売能力検定3級	25名	20名	
ファッションビジネス能力検定	5名	5名	
色彩検定	10名	8名	
ファッション販売能力検定2級	15名	12名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（８）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	マンガ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1959 時間 単位時間／単位	270 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1972 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2242 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
35人		34人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム）</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス）</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	0人 (0%)	23人 (69%)	10人 (30%)
(主な就職、業界等) Web、ゲーム会社、アニメーション会社、デザイン会社など (株)マンゴハウス、(株)ナハト、株式会社 RUHIA、(株)アンビション、(株)ヴィーナス、(株)monoi、 (株)エガク			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
Photoshop クリエイター能力認定試験	34名	30名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
69人	5人	7.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的疾患、家庭環境の変化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

④ 学科等の情報（9）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	総合デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 時間 単位時間／単位	393 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	2157 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2550 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
69 人		23 人	0 人	3 人	8 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム）</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス）</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
一人 (0%)	0人 (0%)	一人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築、設計、施工業など (株)福地組、(株)東設計工房			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
建築 CAD 検定 3 級	2 名	2 名	
建築 CAD 検定 2 級	2 名	2 名	
ADEC 色彩士検定	2 名	2 名	
商業施設士補	2 名	2 名	
(備考) (任意記載事項) 令和 4 年度 新設			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
一人	一人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（10）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	インテリア・建築デザイン科（2年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1754時間 単位時間／単位	503 単位時間／単位	1101 単位時間／単位	150 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			1754 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		15人	0人	3人	8人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築、設計、施工業など サイアスホーム(株)、(株)ユートピア設計ネットワーク、(株)福地組、(有)総販、(株)モンシユマン、(株)佐平建設			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
建築 CAD 検定 3 級	7 名	5 名	
建築 CAD 検定 2 級	7 名	5 名	
ADEC 色彩士検定	7 名	7 名	
商業施設士補	7 名	7 名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

① 学科等の情報（11）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	インテリア・建築デザイン科（3年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2561時間 単位時間／単位	1087 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1474 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2561 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		20人	0人	3人	8人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）○教育課程編成計画（カリキュラム） 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識；技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画（シラバス） 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席率が累計で90%以上であること。 2. 課題提出率が100%であること 3. 卒業制作が提出されていること <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制として、個別対応を実施している。 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建築、設計、施工業など (株)福地組、(株)東設計工房			
(就職指導内容) 適性審査、自己発見検査、就職個別指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
建築 CAD 検定 3 級	2 名	2 名	
建築 CAD 検定 2 級	2 名	2 名	
ADEC 色彩士検定	2 名	2 名	
商業施設士補	2 名	2 名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細かなガイダンスと共に、臨床心理士によるメンタルケアを行う 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の三者で情報共有し立ち直りを促す		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
デザイン 専攻科	100,000 円	830,000 円	円	
デジ タル デザ イン 科	100,000 円	810,000 円	円	
ファッ ション科	100,000 円	790,000 円	円	
マンガ科	100,000 円	810,000 円	円	
総合デザ イン科	100,000 円	830,000 円	円	
インテリ ア・建築 デザイ ン科 (2年 制)	100,000 円	810,000 円	円	
イン テリア建 築デザ イン科 (3 年制)	100,000 円	830,000 円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ida.ac.jp/information/public/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校が行う運営によって直接・間接的に影響を受ける企業や高校教員、保護者等によって構成される委員を選定し、①教育理念、②教育の内容、③教育の実施体制、④達成度と教育効果、⑤学生支援、⑥社会的活動、⑦管理運営、⑧財務、⑨改革・改善の9項目102点検項目の評価結果に基づき学校関係者評価委員会を開催する。 学校評価の結果をふまえ、中期経営計画、次年度業務計画策定時の改善に繋げる。自己点検評価、学校関係者評価報告書を作成しホームページにて公開する。また全職員で共有する機会を持つ事とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
Apo. rea. Design	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	企業委員グラフィックデザイン分野 (卒業生)

沖縄県立真和志高校 教諭	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	高校教員
フレームワーク	平成2年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者
株式会社沖縄ハートス	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員デジタルデザイン分野 (卒業生)
COCON	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員インテリア建築分野 (卒業生)
株式会社オナガ総業	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員ファッション分野 (卒業生)
株式会社 monoii	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業委員マンガ分野 (卒業生)
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ida.ac.jp/information/public/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ida.ac.jp/
--